

Education from Comparative Perspective)、山本雄二 (関西大学)、ブルマーの秘密

第 92 回 2 月 20 日 : 武内清 (上智大学)、教育社会学ゼミ卒業生、学生、テーマ : 大学教育を考える

資料 2 2000 年度 上智大学・教育社会学演習 (3 年生) シラバス 一担当 武内清一

曜日・時間 : 火曜日 1 時 30 分 ~ 3 時 5 分 場所 : 3 - 537 教室

4 月 18 日 ガイダンス、自己紹介、分担の決定

4 月 25 日 武内講義 (大学と大学生について)

5 月 2 日 〈青年の社会学〉

① 井上俊「青年の文化と生活意識」社会学評論 86、1977

5 月 9 日 ② 栗原彬「やさしさのゆくえ—現代青年の自己意識」思想の科学 1977
(参考 小谷敏「モラトリアム・若者・社会」世界思想社)

5 月 16 日 〈子ども論〉

③ 明石要一「戦後の子どもの生活空間の変化に関する考察」

④ 森田伸子「テキストと子ども (冬冬の夏休み、ミツバチのささやき)」

5 月 23 日 ⑤ 古賀正義「構築される〈子ども問題〉と教育指導のまなざし」

5 月 30 日 〈学校と青年〉

⑥ 占部慎「〈ラップ〉と学生服と〈逆野球帽〉」

6 月 6 日 〈ジェンダーと教育〉

⑦ 木村涼子「少女から女へ—ジェンダーをめぐる大衆状況」

6 月 13 日 ⑧ 佐々木宏子「絵本の中のジェンダー」(『子ども学 12』)

⑨ 中西祐子「チャーター効果と進路形成」(同)

⑩ 坂井博通「〈子〉がつく名前の女の子は、頭がいい？」(同)

6 月 20 日 〈教育改革、学力問題〉

⑪ 佐藤学、苅谷剛彦、大原ひとみ「学力問題を考える」

⑫ 有馬朗人・苅谷剛彦「学力低下の危機—教育改革のどこに問題があるのか」

6 月 27 日 ⑬ 藤田英典「問われる教育の公共性と教師の役割—教育改革のゆくえ」

7 月 4 日 〈学歴の持つ意味〉

⑭ 稲垣恭子「教育、詐欺、学歴」『教育現象の社会学』世界思想社

⑮ 葉師院仁志「学歴社会の仮想現実」『教育現象の社会学』世界思想社

7 月 11 日 〈選抜とアスピレーション〉

⑯ P.H. ターナー「教育における階層移動の様式と学校」

⑰ 山村賢明「日本における社会移動の様式と学校」

10 月 3 日 ⑱ 竹内洋「受験と選抜」『日本のメリットクラシー』

10 月 10 日 〈入試と学力〉

①⑨ 西村和雄 「少数科目入試のもたらしたものの一分数のできない大学生」

②⑩ 中村高康 「推薦入学制度の公認とマス選抜の成立」 1996

10月17日 〈高等教育研究〉

②⑪ 天野郁夫 「日本の高等教育研究」

②⑫ 喜多村和之 「高等教育研究の現在・過去・未来」

②⑬ 金子元久 「高等教育研究のパースペクティブ」

10月24日

②⑭ 矢野真和 「ユニバーサル化への道」

②⑮ 舘 昭 「やわらかな高等教育システムの形成」

②⑯ 山岸俊介 「入試改革から教育改革へ」

10月31日、11月7日 〈多文化教育〉

②⑰ K.B.deMarrais M..D.LeCompte, Ethnic Minorities ;Equality of Educational Opportunity

以後 (11/14,11/21,11/28,12/5,12/12,12/12,12/19,1/9,1/16) の内容は検討中。

グループ研究、発表の予定

- 1 毎回その日のテキストに必ず目を通して、コメント (自分の意見) を書いて (A4,1枚程度)、演習の前に提出のこと (これを出席とする)
- 2 報告者は、テキストの内容の要約と自分のコメントを書いたレジメを作成し、人数分コピーして配ること。それに基づいて発表し、討論の司会をすること。
- 3 報告者は、発表前に必ず武内と発表と討論の方法について打ち合わせをすること。場所は研究室。時間は事前に打ち合わせること (火曜 11時—1時、水曜 12時30分—3時、木 3時30分—5時、金曜 3時30分—5時あたりが、好ましい)。
- 4 最後は、個人ごとに、あるいはグループでゼミレポートを提出すること (8000字程度)
- 5 4年生のゼミとの交流会を開く。
5月から7月 合同コンパ 10月 就職活動体験記、8月 ゼミ合宿、1月下旬 卒論・ゼミ論発表会
- 6 夏合宿の予定 (2泊3日) 7月30日 (日曜) ~8月1日 (火曜)
場所、上智大学軽井沢セミナーハウス。ゼミ、レクリエーション、コンパ
- 7 ゼミの連絡網を作る。連絡責任者を決める。
上智大学教育社会学研究会にも興味あるテーマの時参加すること。